旅うしなく至もの馬て且雑を至て立てうしけ大ゆよ
七ろけの浜梅を捨げて其弟八いかぶ三十郎年ぶてうし
芝浦て実て蒐ちては先時ちゆうしてゆうしんあを強く郎
等ハ越中深十郎津田又八七郎一年以下十七歳を出でなう
けと敵三百余人を手へ合稽もなくかての堅横十文
字なをつけてで面てけうに面を分ぐ者ちう者ま
大勢なと宝一ぬるうをねば道一筋なりけるば所をして討
べき様ちうちて近ち兵海手満ちにかたてうん組と
ひくかて本橋をうをうていて事変なき人々や相を
組んで所を敵八僅て十七騎で徐をなくして地蔵二百五十
人ばかりて面目と敵を先金を攻ちけ和て成敗
面て通て十八度相合せてうば蔵子討死三人手負の
者八取を知べ時方ち八騎ちうけり先ちり至板の関止
むうをし寄ち大浦へ八舎津ち下法寺へ同是花柳城
立ち法寺ち大俗して相原時の兵衛柳ちり家上の
地へ乗人でとて走つれうをば方くて乃川村長右衛門
阿弥ち討面して事細の軍法術評儀して於方の
地付お俗ち者ち者を先て川のたち宝上の地へ乗人